

6月の掲示板より

「雨の中でこそ鮮やかに紫陽花は咲いて」

アジサイの花の色はどうして変わるの？

雨の中でいっそうアジサイの花の色が鮮やかに感じられます。土の酸性・アルカリ性の程度で花の色が変わることはよく知られています。土が酸性だと青色で、アルカリ性に傾くとピンク色になるそうです。6年生のみなさんが理科で学習する、リトマス試験紙の色の変化とは逆ですね。

アジサイはアントシアニンという青から紫の色素を持っていて、酸性の土壌で溶けだしたアルミニウムに反応して青が強くなるそうです。アルカリ性の土では、アルミニウムが溶け出しにくく、ピンク色になりやすいそうです。しかし、それはなぜなのか？とまた疑問が……。青いアジサイも、赤紫に変化したり、白いアジサイがだんだん緑色になったり、深い赤色になったり……。色素が少しずつ分解されて起こる老化現象の一種の変化もあるようです。雨に濡れた色鮮やかなアジサイを美しいと感じて、写真に撮ったり絵にしたり、色の変化を不思議と感じて研究したり、いろいろ楽しみそうです。



柏木小のおおくぼ門近くの白いアジサイ



「雨の中でこそ鮮やかに紫陽花は咲いて」

アジサイの花はどれ？

アジサイの花の色について取り上げましたが、これは、装飾花を囲んでいる「がく」にあたります。

ガクアジサイでは、写真のように真ん中に集まっている小さなつぼつぼのような小さな花が、真花（両性花）です。手まりのようなアジサイでは、花に見えるガクに隠れてポツンと小さく咲いている真花を見つけられます。



色素が分解されて退色

小さな「真花」が集まっている。外側の大きく見えるものはガク弁。



装飾花とガク弁



新宿門横の掲示板にあります。